



社屋と近隣の風景

厚紙和紙製造工程における 定寸カットシステム導入による生産体制の確立



実施した事業の概要と成果

薄くて丈夫というのが和紙の代名詞であったが、昨今美術家が使う画材用紙や写真家が使うインクジェット用の用途が開けてくると、厚い和紙への需要が高まってきた。

和紙の生産工程において、製造された和紙は紙管にロール状に巻き取られ保管されるが、その際巻き癖（カール）が発生し欠陥となる。厚手の和紙ではその影響が顕著になり商品価値が損なわれるため、抄紙（紙を抄くこと）された紙を巻取り部で手作業で単版に裁断して対応していた。

本事業において、紙管に巻かずに定寸で切断できる設備を導入した。自動裁断による効率生産と品質の向上が図れ、多様化する需要に対応できるようになった。



導入設備：NC シングルカッター&テーブルリフター



自動裁断・積層作業

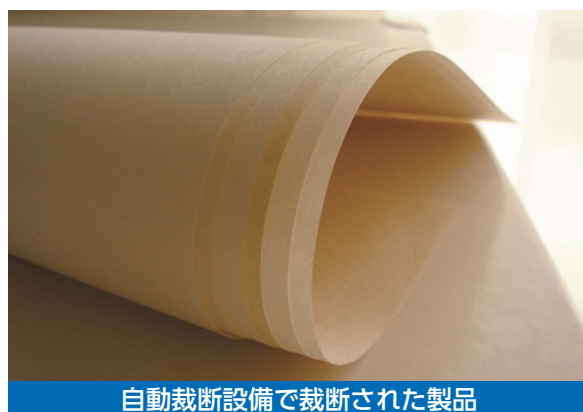


製品開発や課題解決の具体的取組み

昨今、美術家や写真家など芸術分野において厚い和紙(200 g /㎡以上)の需要が高まってきた。本来、和紙の生産工程が薄い紙を製造するための設備になっているため、厚い紙を製造すると不具合が発生しやすい。紙管への巻取りで発生する巻きカールも顕著になるため、厚い紙は巻かずに単版に裁断することで対応している。これまで手作業で行ってきたが、手間がかかるため生産性が悪く、また品質が安定しないことが課題であった。

課題解決にあたり社内にプロジェクトチームを結成した。

前工程(乾燥ドライヤー)と同期したロータリーカッターで紙管に巻かずに定寸で切断し自動で積層する設備装置を導入して自動化を図った。60cmから2mまでの定寸に裁断できるシステムを構築し、多様化する需要への対応が可能となった。生産における生産スピードや生産数などのデータをメインコンピュータに集約し、進捗管理や生産状況のデータベース化を図った。



自動裁断設備で裁断された製品

事業者	富士製紙企業組合
代表者	代表理事 藤森 洋一
設立年月	昭和27年
所在地等	〒779-3401 徳島県吉野川市山川町川東136 TEL：0883-42-2035 FAX：0883-42-6085 http://www.awagami.or.jp/
事業区分	ものづくり技術
資本金額	3,900万円
従業員数	32人
業種	パルプ・紙・紙加工製造業

富士製紙企業組合 の

代表理事

藤森 洋一



本事業取組みへのきっかけと目的

従来の薄くて丈夫な和紙ではなく、厚い和紙への需要が芸術分野を中心に高まってきた。しかし、この需要に応えるためには現行の生産方法では効率が悪く品質も安定しないことから、市場の需要に対応できるように安定生産できる設備を導入した。

今後の展望と活動予定

和紙のユネスコ文化遺産認定や東京オリンピックの開催など、和への関心が高まってきており和紙は芸術分野にとどまらず多彩な用途への展開が見込めるため、今後新たな市場を開拓すべくマーケティングに注力していく。